

中国5県
一斉宣伝

コロナ対策 正当な補償を

松江 県議団、市議団らが訴え

日本共産党の大平よしお前衆議院議員の比例議席奪還へ―松江市では19日、雪が残る中、商店街前で尾村利成、大田陽



介の両県議、岩田剛東部地区委員長、橋祥朗、吉儀敬子、田中はじめ各市議、舟木けんじ、たちばなふみ両市議予定候補が宣伝しました。(写真)

県議団らは、丸山知事が17日、政府や東京都などの感染症対策への改善などがない限り、県内で実施予定の東京五輪・パラリンピックの聖火リレー中止を検討すると表明したことについて、「事業者への直接支援と聖火リレー実施の可否を絡める

地域の話題 アタコ

南 新型コロナ体制強化を 上代議員が要求

新型コロナ感染への恐怖が広がる中、上代議員は「未然の防止策や感染時の対応策はどうか」「11月からは、かかりつけ医が対応すると言われるが、100%か。どんな検査か」と質問しました。

狩野健康福祉部長は「市内では、大体8割の医療機関が指定医療機関となつて頂いている。(機器があるところはPCR検査をされると思うが)一般的には抗原検査、いわゆる簡易キット検査で対応することになる」と答弁。

西 就学援助制度周知を 後藤議員が要望

後藤議員―市は就学援助制度を持続化給付金の給付で認定すると、対象の拡大を行っている。現在の申請・認定件数は。

ことには無理がある」としつつ、丸山知事が「感染拡大を封じ込めるための政府や東京都の対応に不満がある」と発言したことは極めて当然と強調しました。

告示 4/13 18投票

日高やえみさん(新)を擁立

日本共産党西部地区委員会はこのほど、邑南町議選(4月13日告示・18日投票)で定数13で



橋本経済環境部長―持続化給付金をもとに9件認定している。

後藤議員―市の中小企業等緊急支援給付金は3千件以上給付されています。就学援助制度の認定が9件というのは支援策の内容が行き届いていないのではないかと。再度、保護者に文書を出してほしい。

三島教育部長―全世界への配布については検討させていたいただきたい。(ことう由美の市議会報告)より)

江 江の川の防災対策 河道掘削を実施

度重なる江の川での豪雨災害を受け、国交省が河道掘削の工事を各所で進めています。桜江町川越も河道掘削の工事が予

のことだと指摘。その上で「感染症対策で一番大切なことは正当な補償、国民の納得と合意、社会的連帯を進めることだ」と強調しました。

日高やえみさん(新)を擁立

日高やえみさん(67)は新2を擁立すると発表しました。

日高さんは広島市生まれ。広島市の高校看護科を卒業後、市内の病院に就職。ケアマネージャーとしても勤務しました。邑南町出身の夫退職後、邑南町へ。邑南町では訪問看護を行っています。

渡田では、増水による被害の拡大を防ぐため、部分的な「仮締切」を可能にするための仮堤防を

出水期(6月1日〜10月31日)までに設置することとなっています。

設置については、昨年1月に行われた地元説明会では「仮締切」で取り残されるエリアの住民から「かえって逆流の水位が上がるのではないかと」の質問に、国交省は「次の出水期までに川越大橋から下流10キロ程度で河道掘削を実施する」とし、水位は上がらないと説明していました。(ことう民報)より)

米山「女性はすぐこうそをつく」発言の時に、フラワーデモの主催者の方たち

の時に、フラワーデモの主催者の方たち

最大の問題は、何といっても政治分野。国会の女性議員比率は、衆議院で1割にも達していません。ここにいろんな政策決定における女性の声が反映されないという原因もあるし、結果、女性が生きづらい社会になってしまっています。

大平 ジェンダー平等後進国・日本の

望んでいる「選択的夫婦別姓」についても、自民党は、昨年末、ぎりぎりになって政府方針を後退させました。世界で夫婦同姓を法律で義務付けているのは日本だけなんです。自民党の杉田水脈議員が「男女共同参画計画案から夫婦別姓の文言を削除させた」とツイッターにあげたことに、批判があがっています。

大平 杉田水脈議員は中国ブロ

ック選出です。山口の新婦人のみなさんが、地元・山口で杉田議員の暴言に対して抗議し、謝罪・撤回を求める声明を幅広く呼び掛けて、連合婦人会や商工会婦人も名を連ねて「声明」を発表しました。新たな女性の連帯が新婦人のみなさんの頑張りもあって広がっています。

新春対談



がよびかけた議員辞職を求めるネット署名13万8千人分を自民党の本部に届けたら、受け取り拒否されました。政権与党が国民の意思を示した署名を突き返すなど、驚きました。そういう政党に国政をまかせられませんか。

大平 この分野でもやっぱ政権交代をして、誰もがありのまま認められる、そんな日本社会にしていきたい

に、みなさんとともに進んでいきたいと決意しています。

大平 最後は今年の抱負を。

米山 コロナ禍もまだまだ続くと思います。今ほど、命と暮らしを求められている時はありません。やはり、選挙で政治をかえたいですね。新婦人は、会として特定の政党を支持することはしませんが、政治の話やタブーにせず、私たちの暮らしや要求と政治について大いにおしゃべりを広げたいです。声を上げ仲間を増やし、選挙で変える

野党が力を合わせて、いのちと暮らしを守り、平和とジェンダー平等をめざす政権を実現したいですね。

大平 悔しさをバネにこの3年間、中国5県を駆け抜け、各地の渦巻く声を聞いてきました。全身全霊をかけて議席奪還に挑戦し、みなさんの願いを必ず国会に届けるよう頑張ります。米山さん、東京で待っています。米山さん、東京で待っています。

米山 お待ちしています。(終)

米山淳子 大平喜信

米山淳子(よねやま・あつこ)さん 1959年東広島市生まれ。日本女子大学(社会学部)女子学生部の就職難など学生運動をへて1986年新日本婦人の会中央本部へ。新婦人しんぶん編集部、『新婦人情報』編集長、運動・しんぶん委員会責任者。原水爆禁止日本協議会代表理事、日本婦人団体連合会副会長。